研究基礎演習（2単位） 必　　中村 強士 ・ 保正 友子 ・ 児玉 善郎

１．テーマ

学術研究の基礎的手法を学び,院生同士の討論を通して,自分自身の問題意識や研究課題を明確にし,客観的で論理的な論文を作成できるようにする.

２．科目のねらい

＜キーワード＞

１．研究基礎力　　２．調査対象の選定　　３．研究方法

＜内容の要約＞

本演習では，先行研究を読んだり，論文を書いたりするための基礎的な研究手法について学ぶとともに，自分自身の研究課題を深めることを目指します．受講生間の（ネット上）の討論・スクーリング等を通じた積極的な参画が望まれます.

＜学習目標＞

・学術研究の基礎を身につけることで，客観的で論理的な論文の作成ができる.
（DP⑦・DP⑨）
・課題解決に向けて，事実や根拠を示しつつ，院生同士や教員と議論を積み上げていくことができる.
（DP②・DP⑧）
・マクロ・メゾ・ミクロを俯瞰した上，自分自身の問題意識や研究課題を明確にすることができる.
（DP⑤・DP⑥）

３．テキスト・参考文献

４月スクーリング時に大学院よりテキストを配布します.

４．具体的な学習の進め方

本演習は，３人の教員が各クラスを担当して進めます.

	Ａクラス	Ｂクラス	Ｃクラス
担当者	中村　強士	保正　友子	児玉　善郎

第１講　（前期：4/6）　授業の進め方（スクーリング対面授業）
第２講　（前期：4/14-）学術研究とは何か①（テキスト第１章）
第３講　（前期：4/21-）学術研究とは何か②：ディスカッション
第４講　（前期：4/28-）「問い」の育て方①（テキスト第２章）
第５講　（前期：5/ 5-）「問い」の育て方②：ディスカッション
第６講　（前期：5/12-）“よい”研究とは何か①（テキスト第３章）
第７講　（前期：5/19-）“よい”研究とは何か②：ディスカッション

■ 第１回（中間）レポートの執筆・提出：　6　月　30 日　（月）締切

第８講　　（前期：5/26-）パラグラフと論文アウトラインの作成①（テキスト第４章）
第９講　　（前期：6/ 2-）パラグラフと論文アウトラインの作成②：ディスカッション
第１０講　（前期：6/ 9-）研究方法の選択①（テキスト第５章）
第１１講　（前期：6/16-）研究方法の選択②：ディスカッション
第１２講　（前期：6/23-）量的研究の進め方①（テキスト第６章）
第１３講　（前期：6/30-）量的研究の進め方②：ディスカッション
第１４講　（前期：7/ 7-）質的研究の進め方②（テキスト第７章）
第１５・１６講　（前期：7/13 ）質的研究の進め方②：ディスカッション
（スクーリング対面授業・３クラス合同）
第１７講　（前期：7/13 ）授業全体のまとめ

■ 第２回（期末）レポートの執筆・提出：　８　月　11　日　（月）締切

・およそ「１テーマ２講」の構成です．①では，テキストを読んで，学んだことや考えたこと，わからなかったことを投稿（コメント）します．②では，クラス担当講師による特別な指示がないかぎり，①をふまえて，自分自身の研究にいかせることや悩んでいることを投稿（コメント）します．
・４月，７月の２回のスクーリングにおいて，テキストとインターネットでの学習を補完する内容について，各教員が対面授業を実施します．７月スクーリングの詳細については，別途連絡します．
・任意ではありますが，５月末～６月頭に Zoom を用いたリアルタイムオンラインゼミを１回開催予定です．実施日時は４月スクーリング時にお伝えします．

５．事前学習の内容・学習上の注意

・担当教員が示すテーマや課題について，「nfu.jp ポータルサイト」で受講者同士が活発に議論を行うことが求められます．
・受講者自身の研究テーマに関連したフィールド学習や実地研究の取り組みについては，調査方法はいうまでもなく，調査倫理等について各担当教員からの指示や助言を受けることが求められます．

６．本科目の関連科目

社会福祉研究法論特講，調査研究方法論特講

７．レポート課題・単位認定方法と基準

第１回レポートの評価（30 点），第２回レポートの評価（30 点），「nfu.jp ポータルサイト」上での課題提出やスクーリング時の発表内容や討論への貢献度評価（40 点）により評価し，総合評価 60 点以上を合格とします．また，第１回・第２回レポートを両方とも提出し，それぞれについて C 評価以上（６割以上）をとることが必要です．

●第１回レポート
第１講から第７講までをとおして，本演習で学んだこと，考えたこと，いかせることを述べなさい．
（1200 字程度）

●第２回レポート
第１講から第 15 講全体をとおして，本演習で学んだこと，考えたこと，いかせることを述べなさい．
（1200 字程度）

ケースメソッド演習（2 単位） 後 選必	担当者:木村･山内･宇佐美

１．テーマ

保健医療福祉サービスを供給する組織の運営や実践に関するケース教材を用い、ミクロ・メゾ・マクロを俯瞰する視野をもち、多角的に発想できるよう討論する。

２．科目のねらい

＜キーワード＞

①ケースメソッド、②実践知の向上、③適切な判断を導く力、④多様な視点と想像力、
⑤リーダーシップとフォロワーシップ

＜内容の要約＞

ケース教材に描かれる保健・医療・福祉課題の解決を目指し、問題解決の過程で取り巻く様々な環境要因に目を配りながら判断の根拠を組み立て、仲間や教員と適切な判断を導き出していく。

具体的には①「nfu.jp」に書き込んでディスカッションすることで、経験知や思慮深い考えを言語化し、実践知として文章表現する。②課題に取り組むことで、実践事例を分析し、その事例に潜む教育目的を定め、ショートケースとティーチングノートを作成する。③全院生が場を同じにして「生のディスカッション」を行うことで、様々な意見に触れ、場の動きを読みながら発言をする動体認識力、リーダーシップやフォロワーシップの重要性を体験する。

＜学習目標＞

・保健・医療・福祉の実践や運営の事例ついて、事実・根拠・理由を示しつつ仲間や教員と議論を積み上げて、課題解決をめざすことができる(DP③・DP⑥・DP⑦)。
・社会福祉とその問題領域が直面する課題の背景と本質について、ミクロ・メゾ・マクロを俯瞰する視野を持って理解し、多角的に発想していくことができる(DP①・DP⑤)。
・社会福祉の「価値」をふまえた思考と適切な判断ができる(DP④)

３．テキスト・参考文献

テキスト：本学ケースメソッド研究会登録ケース教材、ショートケースとティーチングノートの書き方

動画 ケースメソッド演習(日本福祉大学 公式 YouTube チャンネル @NihonFukushiUniv)

https://www.youtube.com/watch?v=MP2BzMKs0zI

参考図書：髙木晴夫・竹内伸一(2010)『ケースメソッド教授法入門―理論・技法・演習・ココロ』
慶應義塾大学出版会

４．具体的な学習の進め方

9 月 7 日 第 1 回スクーリング　午前：自己紹介、ケースメソッド演習オリエンテーション（各領域別）
午後：ケース教材① グループ討議（各領域）
ケース教材① クラス討議・まとめ（合同）
第 1 講（9/15-）9 月スクーリングのふり返り
第 2 講（9/22-）ケース教材②　設問 1
第 3 講（9/29-）ケース教材②　設問 2
第 4 講（10/6-）ケース教材②　設問 3
第 5 講（10/13-）リアルタイムオンライン演習（各領域 Zoom 授業）
ショートケースなどの作成についてテキスト提示
第 6 講（10/20-）ショートケース　・ティーイングノート作成 1
第 7 講（10/27-）ショートケース　・ティーイングノート作成 2
■第 1 回（中間）レポート；ショートケース　・ティーイングノート(草稿)提出
第 8 講（11/3-）　ケース教材③　設問 1
第 9 講（11/10-）ケース教材③　設問 2
第 10 講（11/17-）ケース教材③ まとめ
第 11 講（11/24-）ケース教材④ 設問 1
第 12 講（12/1-）ケース教材④ 設問 2
12 月 7 日 第 2 回スクーリング
午前：ケース教材④ 領域ごとに演習（グループ討議）、
教員が添削したショートケース・ティーチングノート(草稿)を返却
午後：ケース教材④ 3 領域合同クラス討議、まとめ、
―昨年度作成のショートケースを試運転
第 13 講（12/8-）12 月スクーリングのふり返り
ショートケース　・ティーチングノート（院生間ピアレビュー）
第 14 講（12/15-）ショートケース・ティーチングノートのリライト 1
第 15 講（12/22-）ショートケース・ティーチングノートのリライト 2
■第 2 回（期末）レポート；ショートケース・ティーチングノートの最終稿提出

５．事前学習の内容・学習上の注意

・担当教員が示しテーマや課題について、インターネット上で受講生同士が活発に議論を行うことが求められる。
・ケースメソッドでは事前学習として、まずは個人で課題について熟考し、課題シートに考えを書いた上で、他者の考えを聴くといった段階を経たプロセスが望まれる。

６．本科目の関連科目

前期科目「研究基礎演習」

７．レポート課題・単位認定方法と基準

・本科目の課題は、ショートケース とティーチングノートの作成である。その詳細については、担当教員から指示する。
・成績評価は、インターネット上の学習到達度の確認（30 点）、スクーリングでの学習到達度の確認（30 点）、課題の評価（40 点）を総合し、60 点異常を合格とする。